

---

# Fake family

愛羅0730

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

F a k e f a m i l y

### 【コード】

N 0 8 7 1 U

### 【作者名】

愛羅 0 7 3 0

### 【あらすじ】

上原華、17歳。児童養護施設春の家で2歳から今まで育つ。・  
・最近ぎくしゃくしているあいつと一緒に。

高校卒業⇨施設の卒園まであと一年切って、夢をつかむため悪戦苦闘の日々。

それに加え、バイト先の先輩や最近冷たいあいつを巻き込み、恋模様も荒れ模様！

華に、花咲く春はやってくるのか!?

## ぶろろーぐ(前書き)

新作、連載開始しました。

が、「月と貴方と願いの行方」が完結するまではこちらをメインとさせていたため、この「Fake family」は亀更新になります。

申し訳ありませんが、ご了承ください(――)

ぶるるーぐ

ピピッピピッピピ

Just朝5時に鳴る目覚ましを、軽快にぱんつと叩いて止める。  
朝強いのがあたしの長所の一つ。

本当ならもつと寝ていたいけど、平日水曜以外は大抵6時半からバスケ部の朝練がある。  
学校は歩いて10分という超近場だけど、とにかくあたしの朝は大忙しだから、5時起きでも時間が足りないくらい。

起きて身支度して、夜勤明けの先生に「おはよう」を言って、まずはお弁当作り。

自分の分と、幼稚園に通うちびちゃん'sの3人分。

おかずは調理されたものや冷凍食品が前日の夕方に食堂から配給さ

れていて、冷蔵庫にしまつてあるから、それを詰める。  
ただ、卵焼きは毎日作らないといけないからちよつと面倒。

でも、ちびちゃん's はあたしのあまーい牛乳入り卵焼きが大好きだから、がんばつて作っている。

毎日「おいしかった〜」って空っぽのお弁当箱と天使の笑顔を見せられると、やっぱりすごく嬉しいし作りがいがある。

彩良く、手際良くおかずを詰めたら、自分の分には炊きたての真っ白なごはんを詰め、ちびちゃん's の分は小さな子供の手のこぶし大のふりかけおにぎりを2つずつ。

テーブルの上に3つお弁当を並べ冷めるのを待っている間、朝ごはんの準備をする。

先生の分も入れて8枚、大皿を用意して、冷めても問題のないサラダや切干大根を盛り付ける。

鍋一杯の水に、ミキサーにかけて粉末にした煮干しを入れ、豆腐、わかめを具にお味噌を作る。

ここまでやっておけば、後は6時半に出勤する朝勤の先生が目玉焼きを焼いて、みんなの立派な朝食になる。

一段落ついてさて、朝ご飯食べ〜よつと二人分目玉焼きを焼いたと

ところで、新あらたが自室から出てきた。

向井新。あたしと同一年の高校3年生で剣道部で同じく朝練組。でもお昼は給食の学校だから大抵あたしより遅い5時半頃に起きてくる。

新とあたし、同じホームに同一年がいるっていうのも珍しいっていうのに、男女だから最近は気恥かしくて滅多に話さない。

家族同然に、2歳から18歳になる今まで一緒に育って、小学校卒業するくらいまでは仲良かったのに。

「おはよ。新。」

「・・・ああ。」

昔は「おはよう、華ちゃん。」「ってそりゃあすごく可愛かったのにいまじゃ背だけによきによき伸びて可愛げがなくなり、しかめっ面しか見せない。

これが学校じゃ「クールでカッコいい」とモテまくってるなんてサギだ。

「1」飯食べるでしょ。」

「……ああ。」

「じゃ、お味噌汁お願いね。」

そう言って、あたしはご飯、新はお味噌汁をそれぞれの分もよそってセッティングする。

7

「いただきます。」

あたしがいただきますしている間に、新はもう黙々と食べ始めている。

一人で食べるよりは二人の方が良いけれど、気心が知れているはずの新とでもし　んと話もせず食べるのは少し、つらい。

そう考えている間に、新は食べ終わっていた。

「え、ちょ、なんでそんなに食べるの早いのよ！」

「・・・お前が遅いだけだろう。」

新たはぼそりとはかにしたように言って、後片付けを終え、すばやく歯磨きをして「いつてきます」も言わずに鞆を持って出ていった。あたしは呆気にとらわれた。いつも早いが、今朝の起きてから出て行くまでの時間は、今までで最短だった。

8

「・・・愛想、というものをもっと大事にしろ！アホめ。」

新の失礼な態度に朝から嫌な気分になる。せつかく目覚めの良い朝だっけ言うのに！

「あああゝもう、やめやめ。あいつのことなんて！怒るのもばかばかしい！」

ふつつつと湧いてくる怒りのままに、ご飯をかつ込む。  
ほんの少し、感じた、胸の痛みを誤魔化すように。

「しちそうさまっ!」

しっかり後片付けをし、きっちり身支度をして忘れずにお弁当を持って6時丁度にホームを出た。

まだ誰も起きていない、静まり返った部屋。それでも、起こさないように小声でつぶやく。

「行ってきます。」

上原華。 17歳。 児童養護施設春の家で過ごす最後の一年を切った、初夏のことだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0871u/>

---

Fake family

2011年10月8日18時40分発行